

今も残る築城当時の面影



C地点：師団長官舎裏に残る儀明川跡地



D地点：青田川の跡地の凹み



F地点：百間堀跡

かつては氾濫原だった浸水被害の受けやすい土地も住宅地として利用が進んでいる。

【昭和40年(1965年)9月水害】



北城町・上越大通り
(旧・国道18号)の浸水状況



現在



北城町の浸水状況
高田北城高校の屋上から東本町方向に撮影されたものと推測される。

川のはん濫による浸水リスク、指定避難場所等は洪水ハザードマップを参考にしてください(上越市で公表・配布)。

マップの見方

- 浸水深が3.0m以上の区域
- 浸水深が0.5m~3.0mの区域
- 浸水深が0.5m未満の区域
- 指定緊急避難場所
- 指定緊急避難場所兼指定避難所
- 防災行政無線(屋外拡声子局)
- 浸水実績



東本町の微高地



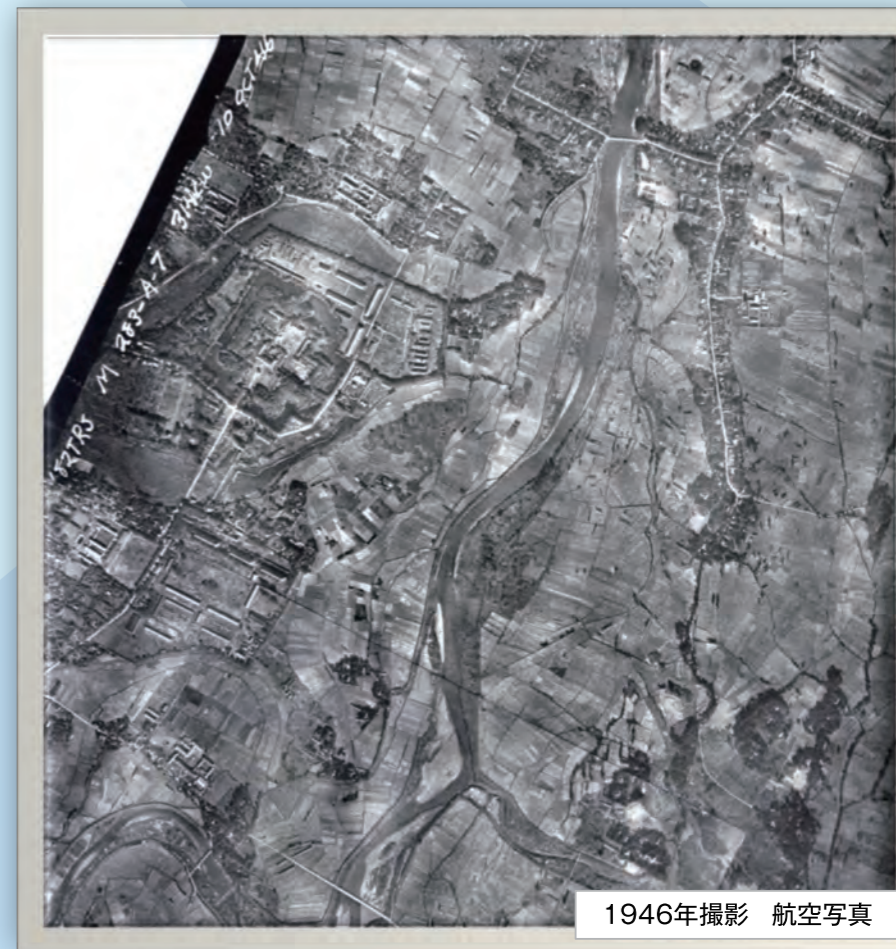
国土交通省 高田河川国道事務所(調査第一課)

〒943-0847 新潟県上越市南新町3-56 TEL(025)521-4540

参考文献:「ぶら高田」(北越出版)上越教育大学 浅倉有子教授、山縣耕太郎教授ほか著

高田開府400年

川と城と町の
なりたち



1946年撮影 航空写真



2000年撮影 航空写真



関川 稲田橋(1914年)

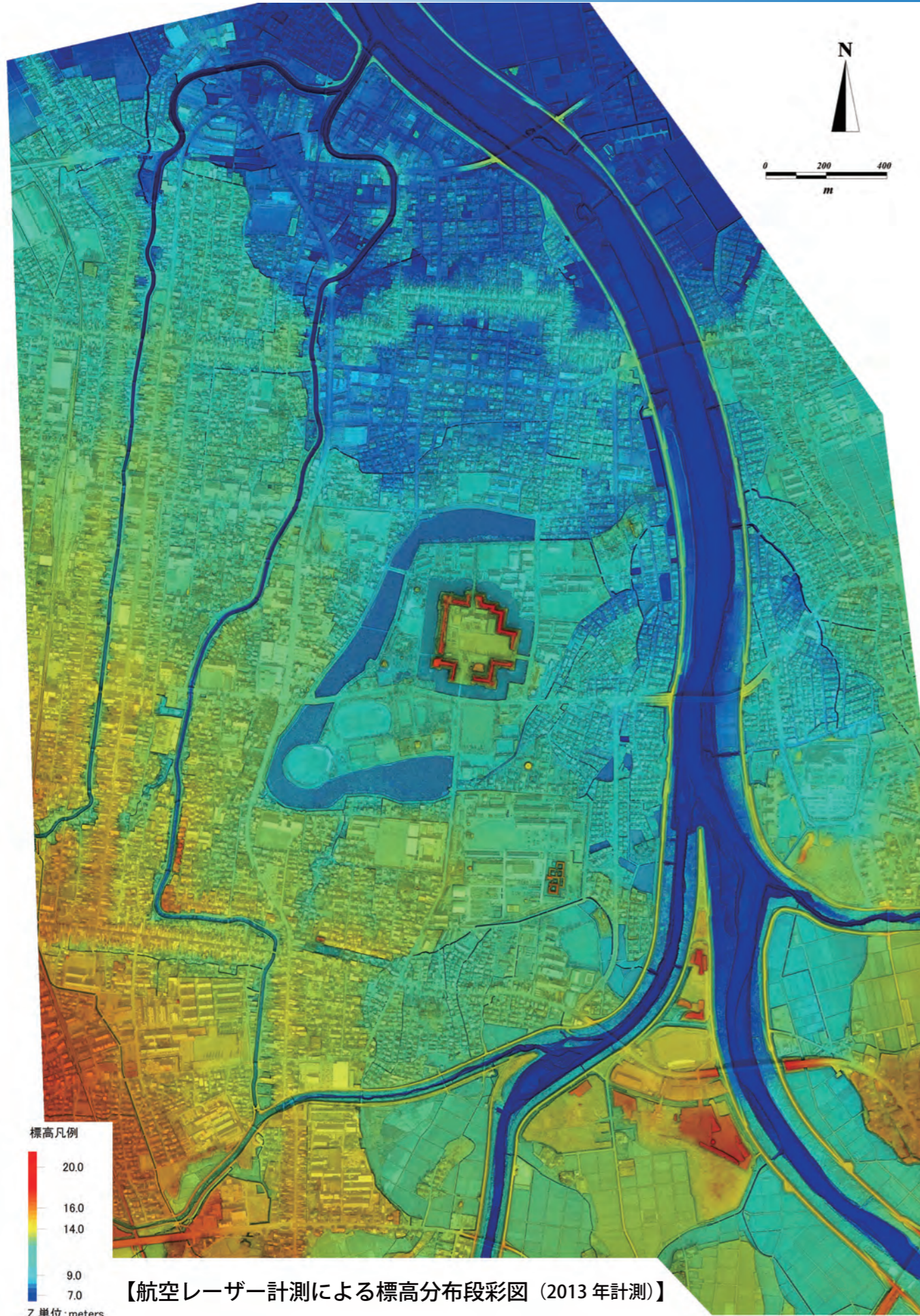


関川 稲田橋(2014年)

稲田橋付近は、高田城築城時に開削し、関川の流れを切り替えたとされている。



蛇行する関川の流れを巧みに利用した「外堀」



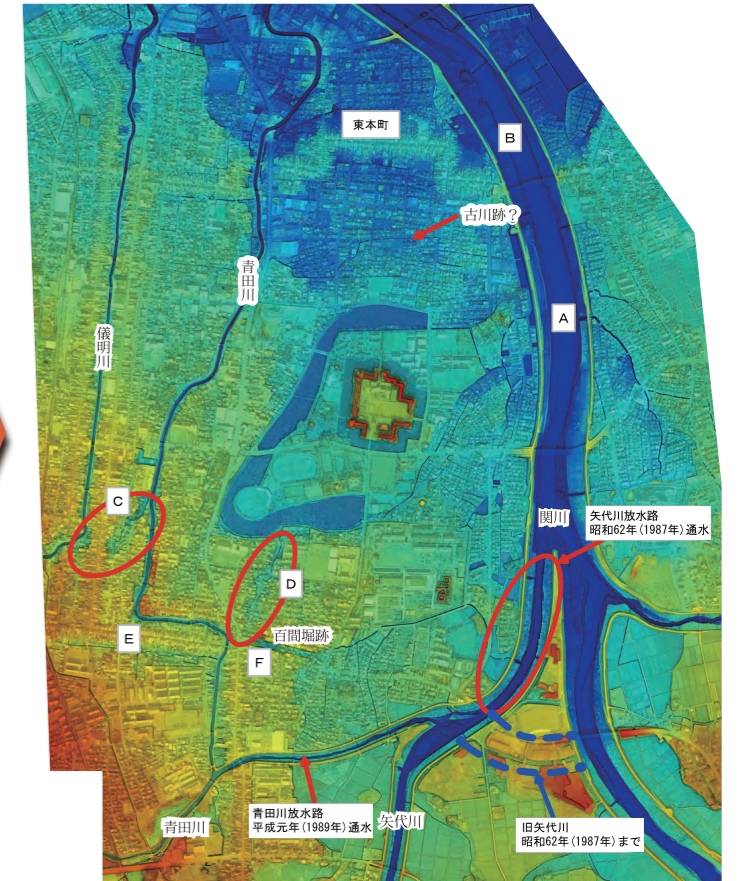
標高凡例
20.0
16.0
14.0
9.0
7.0
Z単位: meters

【航空レーザー計測による標高分布段彩図 (2013年計測)】

注) 標高分布段彩図に、航空写真と立体陰影図を重ね合わせ、地形・地物も判読できるように加工したものです。



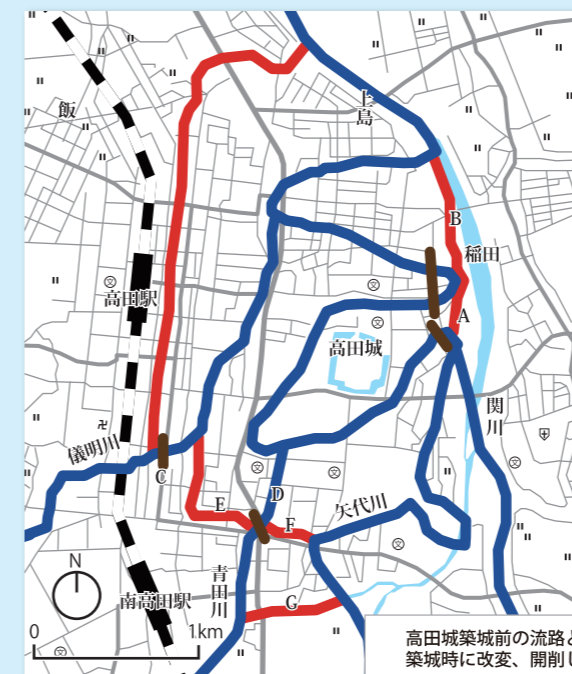
【正保年間 (1644 ~ 1647) の「正保城絵図」】



【2013年の「標高分布段彩図」】

どのように川と地形を利用したのか

高田城の築城にあたっては、関川の流れを切り替えて「外堀」とするなど、川を巧みに利用する一方で、大規模な川の付け替え工事も行われ、城の防護を図ったとされる。



高田城築城前の流路と築城時に改変、開削した流路
 ■ 築城前の流路
 ■ 築城時に開削した流路
 ■ 築城時に流路を塞いだ場所

解説

- ◆ 蛇行する関川の東側で (A)、(B) 区間を開削 (ショートカット) し、川の流れを切り離して旧流路を高田城の外堀とした。
- ◆ 内堀を掘り上げた土砂で本丸を嵩上げし、土塁を構築した。
- ◆ 儀明川は、もともとは現在の青田川的位置に流れていたものを、西側に約 3 km に渡って新規開削し、(C) の箇所を塞いで現在の流れに付け替えた。
- ◆ 青田川は、(D) の南城町で関川 (今の外堀) に合流していたものを、(E) の区間を新規開削して、元の儀明川の流れに付け替えた。
- ◆ 儀明川・青田川を付け替えた区間は、直線的であったり、直角に曲がっていたりして、“不自然な形”であることから「人工河川」であることがわかる。
- ◆ 元の川の流れがあった (C) (D) の区間や、人の手で掘られた「百間堀 (F)」は現在も形跡が残っている。
- ◆ 東本町の街は、旧流路に沿って形成された微高地 (自然堤防) の上にあり、川の氾濫被害を受けにくいところに立地している。